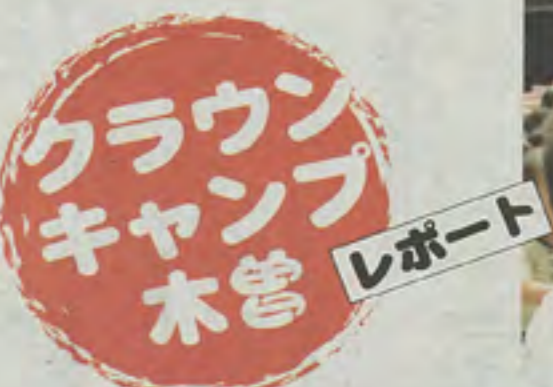


心伝える 笑い 学ぶ



ミート&グリーティング
一般公開で子どもと「ミート&グリーティング」を実践するクラウン



変身の時間
生身の人間からクラウンへ変身。唯一、笑顔のなくなる時間だ



表現
体の動きで表現

自分をまっさらに
無表情の白い仮面で自分の個性を隠すトレーニングをしたキャラクターづくりの授業

米国発祥のイベントを引き継いだクラウンキャンプ木曾は6月30日から7月3日まで、木曾町日義の木曾文化公園で開いた。全国から参加した29人は合宿しながら1日10時間以上、ジャグリングやパントマイムなどの基礎技術から精神論に至るまでみっちり勉強。一般にも公開し、訪れた人々を歓迎する「ミート&グリーティング」と呼ばれる実践形式の学習にも挑んだ。笑いを学んだ4日間を報告する。

全21講座の授業は、「土台のないところから生まれた新しい個性技術を教えるも人の心に届かない」として、「仮面はクラウンの一人の口ネさん」として、「赤い鼻」は世界最小の仮面と話した。パントマイムの授業は、無表情の白い仮面を使った。「どんな個性のクラウンになるにも、まず自分自身をまっさらにする」といって、来場者を相手に「ミート&グリーティング」を行った。

内面を解放し、そこから生まれる新しい個性を表現するのが本質。2日午後7時から、一般公開で口ネさん、パントマイムのステージがあり、約300人が来場。キャンプ参加者はステージが始まるまでの約30分間を使って、来場者を相手に「ミート&グリーティング」を行った。

クラウンキャンプ木曾 口ネさん、パントマイムの授業は、無表情の白い仮面を使った。「どんな個性のクラウンになるにも、まず自分自身をまっさらにする」といって、来場者を相手に「ミート&グリーティング」を行った。



成果を発表
3クラスに分かれ、4日間の練習の成果を発表する「アレーシヨ」。唯一メインホールの舞台上でのパフォーマンスだ



最終日に会場前の広場で写真撮影会。これもプログラムの一環だ

本格的な勉強に
塩尻の上條さん
今回のキャンプには県内から3人が参加。塩尻市の上條吉直さん(47)はその一人だ。上條さんは1997年、同市の中央公民館が主催した「道化師遊び塾」に約半年間参加し、クラウンに興味を持った。そこでの仲間と「塩尻道化組合」を結成。現在は8人でイベント参加や施設訪問を続けている。

上條さん。「ミート&グリーティングは瞬間的なもので、今回のように時間をかけて心が通じ合うようになるまでやるとは知らなかった。赤い鼻は世界最小の仮面」の言葉は心に残った」と話した。



口ネさん、ジージさん

東日本大震災などが起き、中止も考えたが、やってよかった。木曾の人はクラウン好きだということがあった。お客さんに育ててもらえる部分が多いので、ありがたい。日本のクラウン文化は経営面も含め危機的状況。何とか踏ん張り、来年以降に続けたい。